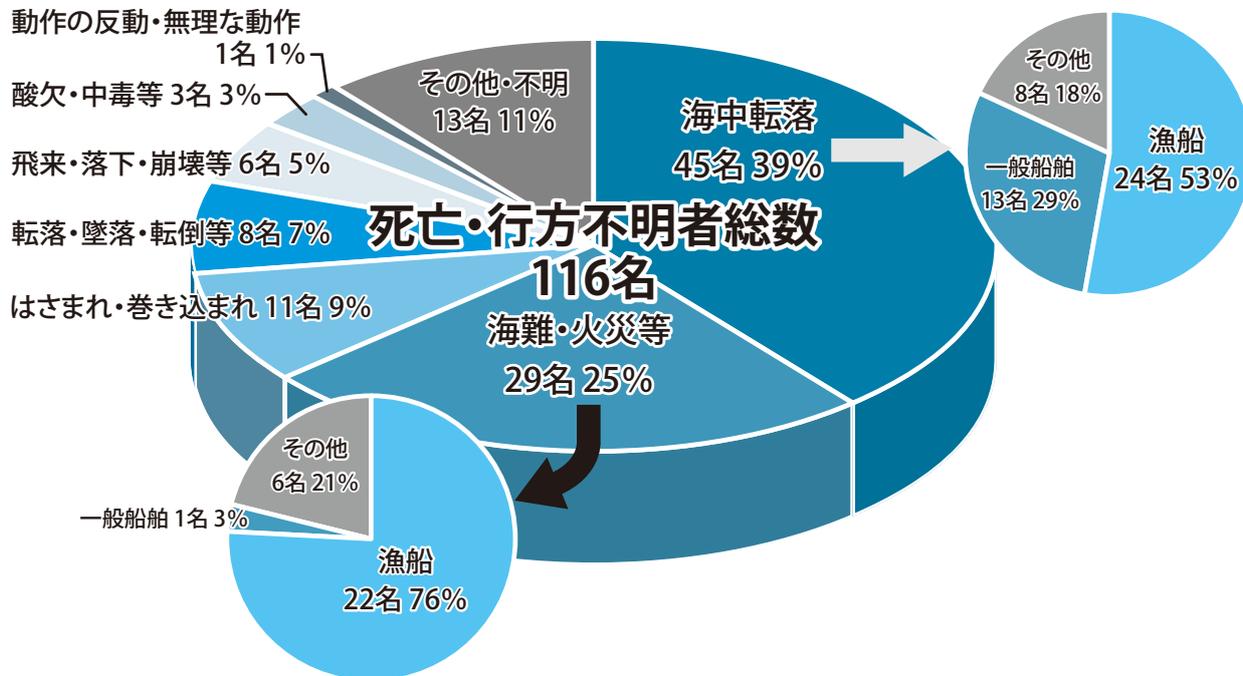


船員の死亡・行方不明災害防止は海中転落予防から

死亡・行方不明災害発生状況 5年累計(平成29年度-令和3年度)



上の円グラフは5年間の死亡・行方不明災害を円グラフで示したものです。海中転落による死亡・行方不明者数は45名で全体の39%におよびます。

甲板上で舷外作業や漁ろう作業などを行う際は、「墜落制止用器具または作業用救命衣の着用」、「荒天時の操業は控える」、「単独作業を行わない」、などの安全対策を講じましょう。

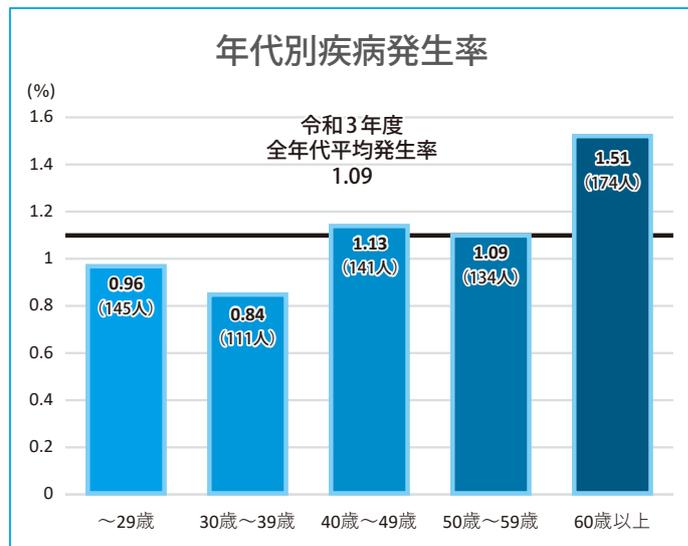
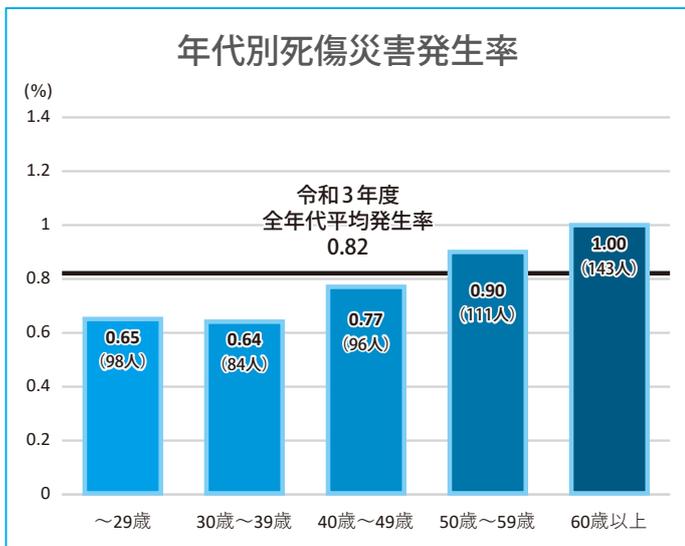
海中転落による死亡・行方不明者数 (年度・船種別)

合計：148名



上の棒グラフは平成21年度～令和3年度までの、海中転落による死亡者・行方不明者数を年度・船種別に示しています。海中転落の可能性のある業務では、作業者に遭難信号発信器等 (PLB: Personal Locator Beacon) を携帯させることも検討しましょう。

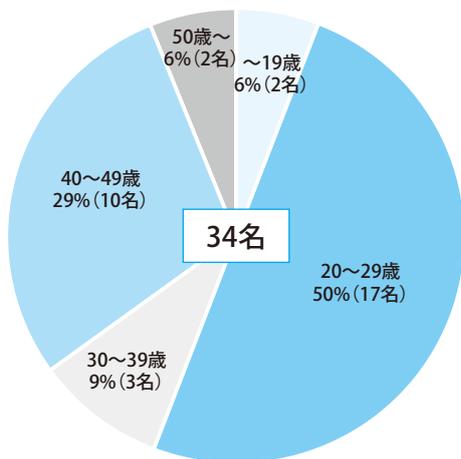
死傷災害と疾病の発生は高齢者に多い



年代別死傷災害発生率は60歳以上で非常に高くなっています。加齢による身体機能の低下や慣れによる油断等に注意しましょう。年代別疾病発生率についても、60歳以上で非常に高くなっています。健康状態を日常的に把握する必要があります。

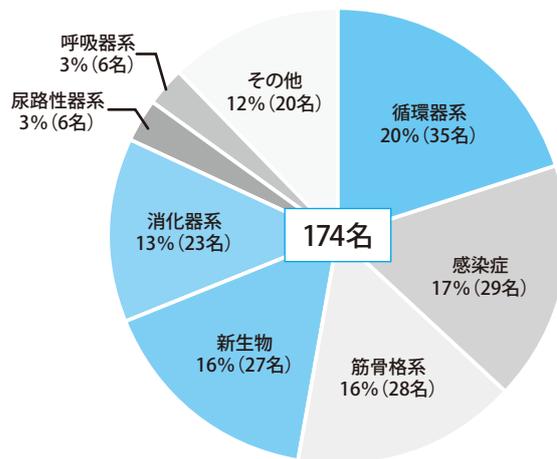
メンタルヘルス系の疾病および高年齢船員の疾病傾向

年齢別メンタルヘルス疾病発生状況



※¹令和2年度 11名

高年齢船員の疾病発生割合



※²令和2年度 170名 青色は生活習慣病に大きく関係するもの

令和3年度におけるメンタルヘルス系の疾病（精神行動障害）は、34人となっており、前年度と比較すると増加しています。また、年齢別の状況を見ると、20代が50%（17人）と最も多く、次いで40代が29%（10人）となっています。

また、令和3年度の年代別船員災害発生状況を見ると、60歳以上の船員の死傷災害及び疾病の発生率は、依然として他の年代と比べて高くなっており、高年齢船員による死傷災害・疾病が多く発生しています。

疾病発生割合では、脳梗塞、虚血性心疾患等の循環器系が20%（35人）、次いで、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により感染症が17%（29人）、関節症、椎間板障害等の筋骨格系が16%（28人）、悪性・良性腫瘍等の新生物が16%（27人）、潰瘍、胃・腸炎等の消化器系が13%（23人）となっています。